

平成30年度 江戸川区立小岩第二中学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで学び、協力し合う生徒の育成 ・規律を守り、責任を果たす生徒の育成 ・健康で思いやりのある生徒の育成 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・「江戸川一を目指す二中」 ・所属感、自己肯定力、自己有用感を持たせ、二中の生徒であることにプライドを持つ。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・行事、委員会活動、部活動などを通して、所属感、自己肯定力、自己有用感及び二中の生徒であることのプライドに確信が持たれた。 ・いじめ・不登校対策、ボランティア活動の推進等の指導が功を奏し、より落ち着き前向きに学習に取り組む環境を保っている。 <課題>・引き続き、家庭学習習慣の定着を徹底し、基礎学力の底上げを図り、学力を向上させることが課題である。 ・家庭や地域の持つ課題に外部機関との連携をさらに強めながら向き合っていく。 ・学校改築を迎え準備を計画的に行い、生徒の学習や諸活動が滞ることがないようにしていく。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
			取組指標	成果指標	取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	近隣小学校、PTA主催行事、連携協議会等の実施	学力、学習到達目標、家庭環境の共通理解を図る。	B	A	円滑に進んでいる。地域、家庭環境面での理解を共有できた。	A	関連が上手くいっていると感じている。	近隣小学校の授業参観等を更に推進
	ボランティア活動の推進	ボランティア活動を奨励、充実感、達成感、自己肯定観の充足	年間5回、各ボランティア活動にできるだけ参加	延べ人数で全校生徒数半数以上の参加。	A	A	延べ人数で全校生徒数半数以上の参加が達成できた。	A	地域から感謝され二中の生徒への評判が更に高まった。	教員の負担が大きい点を改善したい。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	ICTアシスタントによる校内研修の実施	ICTを活用した研究授業に取り組み教員の授業力の向上を推進	A	B	使用価値の理解は深まったが、実践には昨年同様個人差が見られる。	B	評判は聞いているが授業を見る機会が少なかった。	私費で機器を購入しなければいけない
	特別支援教育の更なる充実	「特別支援教育校内伝達研修会」等の実施による教員の指導力の向上	特別支援教育研修会の実施	12月研修会を実施、不登校に対する対応を学び理解を深める	A	A	年度当初にも支援が必要な生徒の共通理解を図り活用している。	B	取組を見る機会がなかった。	教員の理解を深める研修の更なる充実
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施や東京ベーンシットリルの活用によるきめ細やかな指導の充実と授業力の向上	放課後補習、土曜スクール21回 土曜の受験対策講座12回	全国学力調査・都学力調査入学受験への対策	A	B	補習、受験対策講座とも確実に実施できた。	B	成果に表れてきている。	学力調査での数値目標達成に向けての工夫
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	学校図書館貸出電子化を更に推進 読書の数値	新着購入本もすべて2月までに完了 蔵書の整理も完了	A	B	予定通り実施できた。さらに利用者を増やす。	B	実際に活用している場面は見えていない。	司書の配置が必要
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	補強運動等の実施 昼休みの家庭利用	運動能力テストで半数以上の種目で都平均以上が目標	A	A	運動能力テストで1種目を除き都平均目標を越えることができた。	B	運動会ぐらいしか実際に活動する場面が見えなかった。	効果的な補強運動の更なる模索
	オリハラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」の3つの視点を踏まえた取組の充実	パラリンピック教育の充実、国際理解教育の推進	障がい者理解、障がい者スポーツへの関心を高める。	A	A	障がい者スポーツへの関心が高まった。	A	発展途上国へ上履きを送る取り組みが好評であった。	今年度同様に進める予定
相談体制健全育成の充実	健全育成の充実	「江戸川っ子・家庭ルール」の推進による児童・生徒の生活習慣や情報モラル意識の向上	基本的な生活習慣の確立、情報モラル意識の向上	特にスマートフォンの使用モラルについて注意喚起を促す。	A	C	「江戸川っ子・家庭ルール」は年3回確実に実施できた。しかし、生徒の意識向上にはつながらなかった。	B	取組を知らなかった。生徒の情報モラル意識が低下していることを懸念している。	更に進めるが保護者の意識改善なくして結果にはつながらない。
	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	いじめ・学期1度の調査 不登校対策・細やかな対応	いじめ・ゼロ 不登校・10件以内	A	C	いじめ調査は数件上がったがすべて解決した。不登校件数は29件	A	教員が一丸となって取り組んでいることがわかる。	不登校の出現率をできるだけ抑える。
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	週1回、生徒個に応じた支援方法の検討	全教員が教材研究や指導観を改善する。	B	B	情報交換が活かされた。しかし、もっと個に応じた支援の必要性を確感	D	取組を知らなかった。	更に共通理解を深める。
	各種支援員の活用推進	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、登校支援員との個別面談	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、登校支援員との個別面談	生徒の姿容を確認、分析する。	A	B	個別相談、個別指導が昨年度以上に充実した。SSWの支援が新たに加わったことで効果を期待する。	B	取組を見る機会がなかった。	更に有効活用していく。